

農山漁村等地域の情報収集を活用した持続可能な農産漁村等地域育成への貢献

1. 食・農への理解促進

 (1) 三位一体地域密着活動
JA津軽みらい（青森県）

新規	継続
	○
	(1991年4月)

1 動機(経緯)	地域の農業・生活・食文化・伝統を守り、地域にとって必要とされるJAであるために、小学校・組合員・地域住民が中心となった活動を行いました。
2 概要	当JA管内はコメ・りんごを主とした一次産業が中心であり、実家が農家を営む保育園児や小学生が多く、授業の一環として農業について指導を行ってほしいと小学校側から依頼を受けました。小学校側の依頼を受け、当JAでは、1991年4月より、管内小学生（2年生・4年生・6年生対象）及び保育園児を対象に、授業の一環として、農産物を育てる楽しさや苦勞の体験、食べ物への感謝、農業に対する学びを深めてもらうため、組合員の園地を利用しJA指導員が作付けから収穫までを指導した「ふれあいわんぱく農園」を開園しています（主としてさつまいも）。また、小学生（5・6年生対象）は授業にて各自でバケツにコメを作付けから収穫まで行う「バケツ苗」を行っています。（わんぱく農園・バケツ苗ともに今年で27年目）
3 成果(効果)	授業の一環として子供達自身が作付けから収穫までを体験し、バケツ苗で収穫したコメで作ったおにぎりやさつまいもを昼食時に食べることで、農業に対する関心が深められたとともに食べ物への感謝の気持ちを学ぶことができました。
4 今後の予定	課題として、組合員の農業離れにより家業を継ぐ子供達が近年減少しており、幼少期では農業に関心があった子供達も年齢を追うごとに関心が薄れている現状があります。このような現状を打破するため、今後も当JAでは、行政（市）・JA・生産者が三位一体となった取組みを行っていきます。（例えば行政では地産地消のアピール、新規農業者等に奨励金措置の実施、価格安定制度実施、ブランド化の浸透。JAは積極的な低金利融資、品質向上の指導。生産者は安心・安全・高品質な農産物の生産、所得向上等）